

様 式 F - 7 - 2

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実績報告書（研究実績報告書）

所属研究機関名称		大妻女子大学	機関番号	3 2 6 0 4
研究 代表者	部局	文学部		
	職	教授		
	氏名	福島 みどり（天野みどり）		

1．研究種目名 基盤研究(C)（一般） 2．課題番号 16K02735

3．研究課題名 現代日本語の自他に関する構文的研究

4．補助事業期間 平成28年度～令和元年度

5．研究実績の概要

本研究の目的は、「構文」という単位の持つ、形式と意味の慣習的結びつきに関する知識が、実際の言語使用場面での意味生成・理解のプロセスにおいて重要な役割を果たすということを、日本語文法論の立場から論じることである。

昨年度までは、構文に関する知識により、逸脱文の生成や解釈がなされていることを明らかにするため、逸脱文の実例の持つ構文的特徴の残存の分析や、構文的特徴の濃淡に対する母語話者の許容度の変化を調査してきた。特に、後者については、構文的知識を持っていることを前提とし日本語母語話者への調査のみを実施してきたが、本年度は、その比較として、日本語学習者（非母語話者）の容認性判断調査を行った。

その結果、逸脱的な「のを」「のが」の文に対して、学習が進むにつれて日本語学習者は母語話者のような柔軟な解釈をむしろ行わないようになり、逆に許容不可とすることが多くなることがわかった。母語話者は、構文的知識を解釈のための「鋳型」として用いて、不足する意味を柔軟に補足したり、顕現する言語形式の意味を変容したりするのに対し、日本語学習者は、構文的知識を「規範」として捉え、意味理解を停止してしまうということである。

本年度に加えた調査により、現代日本語の自動詞構文・他動詞構文の拡張としての、接続助詞的な「のが」「のを」の文の意味生成・解釈に構文的知識が有用に働いていることが、さらに明確になった。これまで逸脱的な「のが」「のを」の文を例として主張してきた、慣習的構文的知識の意味理解課程に果たす重要性が、異なる視点からも検証できた。

6．キーワード

構文 のが のを 自動詞構文 他動詞構文 意味拡張 接続助詞的 逸脱構文

7．研究発表

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1．著者名 天野みどり	4．巻 -
2．論文標題 日本語の実例に対する文法性判断について	5．発行年 2019年
3．雑誌名 2019 CAJLE Annual Conference Proceedings	6．最初と最後の頁 24-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

2 版

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1．発表者名 天野みどり
2．発表標題 日本語の実例に対する文法性判断について
3．学会等名 CAJLE（Canadian Association for Japanese Language Education） 2019 年次大会（国際学会）
4．発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1．著者名 天野みどり・早瀬尚子	4．発行年 2020年
2．出版社 くろしお出版	5．総ページ数 -
3．書名 構文論文集（仮）	

8．研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件 / うち取得0件）

9．科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

10．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

-

11．備考

-